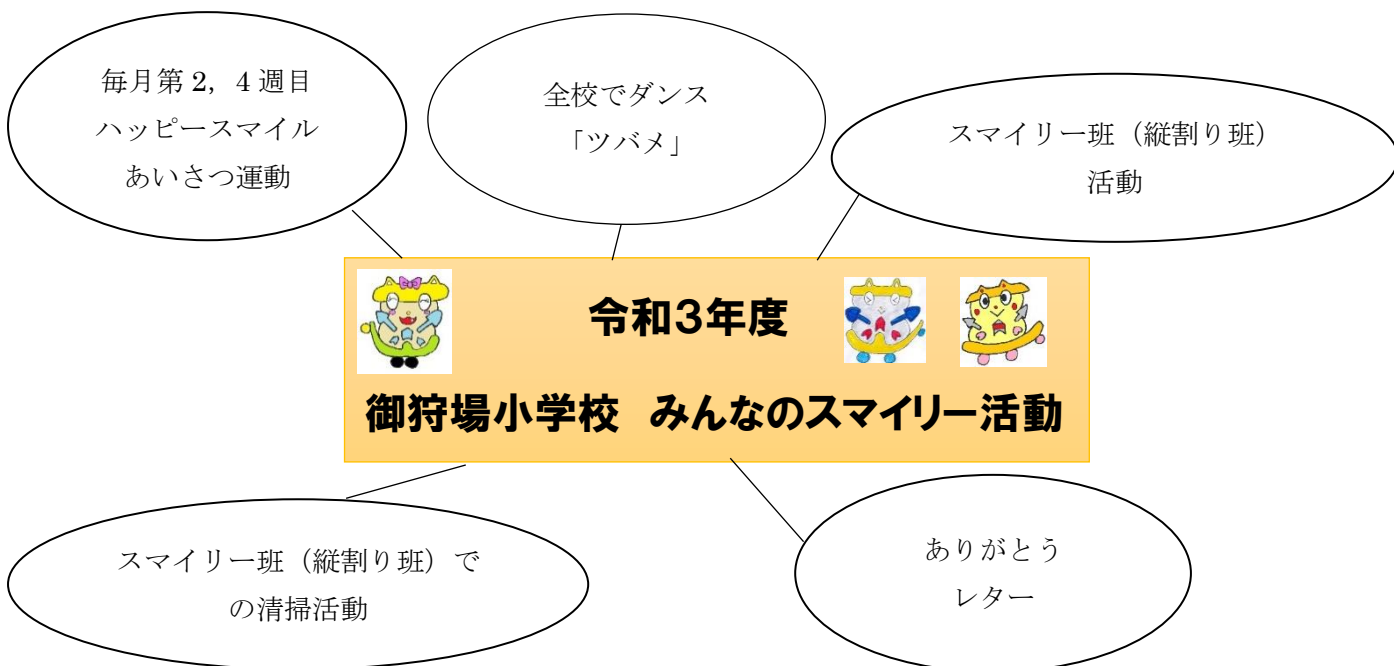


学 校 名	狹山市立御狩場小学校
本校児童会は、「さやまっ子の誓い」を 承認します ・ 承認しません	

本校のいじめ防止に関する実践

1 主な取り組み



(1) スマイリー活動（縦割り活動）の充実

全校児童数が少なく、4年生と6年生以外は単級のため、入学してから一度もクラス替えがなく、人間関係の固定化が心配される。しかし、御狩場小学校は休み時間は異学年同士で誘い合って遊び、上級生は下級生のほとんどの名前を憶えている。それは、その児童数の少なさのいい面を生かし、全校のスマイルがいっぱいになるように、スマイリー班（縦割り）活動の充実を図っているためだと考える。

縦割り活動では、月に1回の班ごとの遊び、全校遠足、児童集会である「元気っこ集会」でのお店運営、毎日の清掃を行っている。特に毎日の清掃活動はリーダーの6年生が下級生にわかりやすく指示し、上級生が下級生に丁寧に教え、とても静かに掃除をしている。清掃後の反省会では、その日が誕生日の子をみんなで拍手をして祝ってあげたり、次のスマイリータイムでどんな遊びをしたいか下級生の意見を聞いたりして、掃除の反省以外の時間にもなって、微笑ましい光景が見られる。

そして、今年度もコロナ対応で行事などが十分できなかったことに対して「全校でできる何かをしたい。」と考えてくれた6年生が「ツバメ」という曲のダンスを覚え、各学年に教えてくれた。6年生は、下級生が向かい合って覚えられるように、反対の動きも覚えて準備をしてくれ、その時間はスマイリー班ごとに小グループを作り、一つ一つ丁寧に説明してくれた。「次はこうだよ。」とふりに動きの言葉をつけながらわかりやすく伝える6年生と、それを熱心に聞く下級生の微笑ましい様子が校庭一杯に広がるあたたかい時間となった。

スマイリー（縦割り）活動の充実により、クラス、学年だけではなく人間関係の構築が見られ、一人一人を大切にしようとする気持ちが培われていることを感じる。また、上級生が下級生を大事にしていく伝統が毎年受け継がれ、リーダーの自覚と、リーダーを尊敬し信頼する心の育成が着実に見られる。



1年生にダンスを教える6年生



スマイリータイム

(2)「ありがとうレター」の取り組み

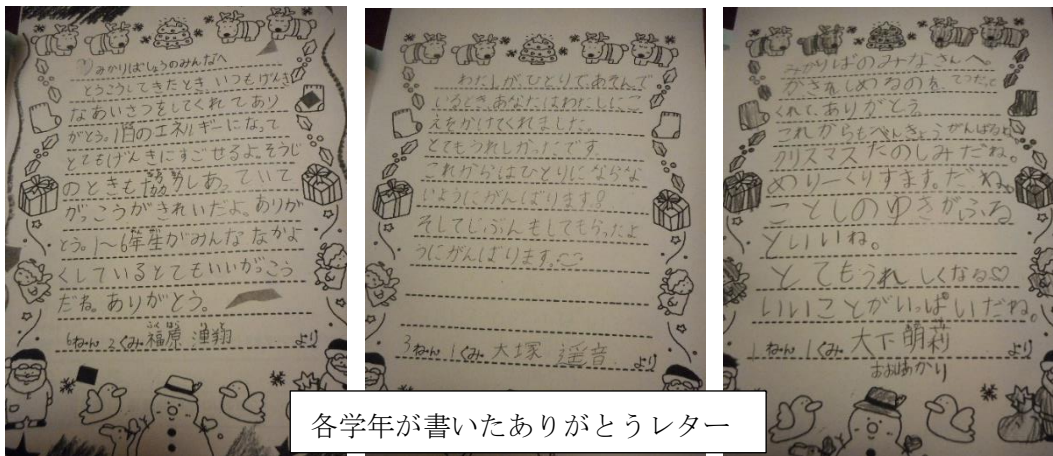
昨年度も行った「ありがとうレター」を、更に工夫して取り組もうと学級代表委員会で相談し、今年度も実施した。今年度はありがとうレターを書いてすぐに渡すのではなく、しばらく時間を置き、学年末に渡す計画を立てた。

●ありがとうレターとは ●

ありがとうレターというのは、全校のみんなのいいところを手紙に書くというもの。学級代表委員が作ったレター用紙を全校のみんなに配り、全校のみんなのいいところを書いてもらって集める。そして、シャッフルして各教室に持って行き、各教室のみんなに配る。ありがとうレターは全員がもらえ、これすることで、みんなの仲が深まり、学校がより楽しくなると昨年度の6年生が考案したもの。

12月、ありがとうレターの用紙が各クラスに配られた。昨年度も行っているので、年間を通して行っている縦割り活動（スマイリー活動）の清掃活動や集会活動などのことを思い出しながら、どの子も夢中で書いていた。初めて取り組んだ1年生も、お世話になっている上級生に向けて、感謝の気持ちを一生懸命書いていた。その書かれた手紙を学級代表委員が集め、2月12日の児童朝会で全校一人一人が書いた「ありがとうレター」が全ての児童に配られた。各教室で学級代表委員によって配られたありがとうレターを熱心に読み、差出人の子を見て、その子の顔を思い浮かべたり、「〇〇さんからだ！」とうれしそうに読んだりしていた。入学後たくさんお世話になったことへの感謝の気持ちを表した1年生から手紙をもらった6年生や、読めない漢字に読み仮名をつけるなど下級生を思う優しさにあふれた上級生からの手紙をもらった1年生など、昨年同様に心温まる時間となった。

その日の休み時間、手紙をもらった6年生が差出人のもとにお礼を言いに行く光景が見られた。もらった手紙からまた新たな交流が生まれ、一人一人を大切に作る心が育まれている。



各学年が書いたありがとうレター



差出人の1年生に
お礼を言い
に来てくれた6年生



もらったありがとうレター
を熱心に読む1年生

2 成果と課題

昨年同様、コロナ禍で様々な活動の制限があり、子供たちにとって「～できなかった。」と思うことが多かった1年になったかもしれない。しかし、そんな中でもこれまでの活動をより深めたり、また違った視点で前向きに捉え、挑戦したりすることができたことは、とてもよかったのではないかと思います。

このような状況だからこそ、みんなで何ができるか考え、みんなで取り組むことで心のつながりを強くすることが大切なのだと考える。身体的な距離はまだ遠いが、心の距離を縮め、つながりを強くすることで、安心して通えるいじめのない学校となると信じている。